

## 第4分科会 人権確立をめざすまちづくり

部落問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決をめざすまちづくりをどうすすめているか

### ③分散会

#### 1 はじめに

6つの討議の柱を全体で共通確認し、5つの実践報告を中心に、参加されている様々な地域や、学校、関係団体の取り組みや実践を交流しながら討議を深めていくことを確認して、報告討議に入った。

#### II 報告および質疑討論の概要

##### —報告1—⑭

解放子ども会への思い～いつまでも、ともに闘う仲間でありたい～  
(熊本県人教)

##### —主な質疑と意見—

**協力者** 今日の報告は2つとも解放子ども会の報告である。熊本県、長野県の2本のレポート。解放子ども会は全国にあるが、子ども会のあり方、歴史、地域の背景はそれぞれ違う、皆さんの地域の解放子ども会とも違いがあると思う。はじめは、報告レポートに対する質疑をしていくが、後半は、参加された方々の地域の解放子ども会の取り組みも紹介してほしい。

**高知** 子どもたちが参加したいと思えるしかけや取り組みについて詳しく知りたい。高校生の学習会が立ち上がったとあるが、具体的にどのように子どもを集めて立ち上げたか聞きたい。参加している子どもたちの小・中・高の人数は？

**大分** 子ども会の運営に子どもたちがどうかかわっているのか。運営上の仕掛けや工夫があるのか。報告者が学生のころ隠したいと思っていた思いが変わったきっかけは。

**報告者** 小学生は17名、中学生も17名、高校生は7名の参加があっている。小中高ともに、支部の子どもたちだけではなく地区外の子どもたちも一緒に部落問題について学んでいる。学習会は、週に2回、月・水の夕方に実施。学校の先生もたくさん来る。水曜日は人権学習の日で、子どもたちとともに先生たちにも学びの場になっている。村人たちとたくさん出合わせたい。子どもたちに自分の部落をしっかりと知ってほしい。聞かれたときに返す力を小さい時からつけていきたい。そんな思いで学習会を運営している。高校生たちの立ち上がりは、解放劇がきっかけ、最初は4人からはじまり、今は7人に増えている。卒業

した子どもたちも2人参加してくれている。子ども会の運営は、南阿蘇村のすべての学校に教育委員会の事業として位置付けてあり、すべての学校に募集をかける。希望した子は、だれでも入ることが可能。学生のここの思いから変わったのは、自分が自分の子どもに伝えようと思った時でしっかり向き合っていこうと思った。私は、私の言葉でこの子に伝えたい。また、私自身が母校で勤務し加配になったことも大きい。

**高知** 児童館で子ども会の指導をしている。毎週子ども会をしている。6年生の子どもが行った立場宣言や家庭訪問の取り組みについて、詳しく教えてほしい。

**報告者** 6年生になり家庭訪問をおこない、保護者の承諾を得て、子どもたちに話していこうとしている。水曜日の人権学習では、地区のフィールドワークをしたり、人の話を聞いたりする学習をしてつないでいっている。6年生の子は隣接地域に住んでいる。保護者も明かすのか明かさないのかについて大変悩まれていた。また、夏の研修に向けて、何度も話し合いを重ねた。その後も、丁寧におうちの人に伝えていった。

**協力者** 今日の報告は2つとも解放子ども会の報告である。私自身も部落の生まれ、高校で解放運動にかかわりはじめ、市役所で働き始めて今に至った。立場宣言、部落民宣言についてはいつも大きな論議となるところである。

**島根** 部落外の子が参加しているが、部落の子と部落外の子がいる時、どうやって部落問題を教えていくのか教えてほしい。

**報告者** 立場宣言をしていく時は、部落の子だけではなく、部落外の子も一緒に実施する。その際、部落外の子の家にも家庭訪問をしたり、宣言後も継続して家庭訪問を繰り返していく。

**鳥取** 隣保館とのかかわりと人権学習について詳しく教えてほしい。

**報告者** 以前は集会所で学習していた。現在、隣保館はないので福祉センターで学習を行っている。親子の学習会は年間2回夏と冬に実施している。参加者は支部長、支部員、保護者、子ども、学校教職員などである。その中では、それぞれがつながること、話せる関係をつくることを目指している。また、人権学習は、毎週水曜日行っているので年間を通すとかなりの量になる。

##### —報告2—⑮

##### 解放子ども会と私

(長野県同教)

##### —主な質疑と意見—

**京都** 人数が減ってきた時、行政としてこの子ども会の活動をどうしていくのか教えてほしい。

**報告者** 人数が減っていくというのは、行政としても喫緊の課題。今は、子ども会を必要とする子が一人でもいれば続けていくんだという立場にいる。

**鳥取** 解放子ども会は、小・中学校の時は取り組んでいるが、高校生や大人になってくるとだんだ

ん部落問題に関する取組などから遠のいていく。解放子ども会で学んだ子どもたちが、高校生になっても引き続き学んでいるか教えてほしい。

**報告者** 中学を卒業して、高校生や大人になっても、行事があるときは声をかけてなるべく参加してもらおうように要請している。行事は、年4～5回ある。OG、OBが今の解放子ども会の子どもたちと顔を合わせるなどしてつながりができてくると考えている。

**高知** 行政主体ということなのですが、学校との連携や学校での発信は？

**報告者** 学校の方針として、火曜日に先生方を派遣してもらっている。解放子ども会としては、積極的に先生方も受け入れ、先生たちの学びにもなっている。

**大分** 解放子ども会に参加している子どもの保護者の思いは？先生たちが解放子ども会をどんな風にとらえているのか？報告者ご自身は？また、連携という視点から、レポートに出てくるAさんが変容がみられる中で自信をつけたとあるが、おそらく日常の中での多くの取組が積み重なっていると思う。それを紹介してもらいたい。

**報告者** 保護者は解放子ども会を安心して子どもを預けていることや、解放子ども会はこういうものだというのも自覚していると思う。また、先生方も解放子ども会を通して、部落問題を学習したいという気持ちがあるし、解放子ども会を通じて、子どもたちともかかわりを持てると考えている。Aさんについては、声掛けだけではないと思う。やはり、学校と解放子ども会が一体となって螺旋状のように関係しあいながら子どもたちを導いていくというのが私の実感。これは、解放子ども会だけでも駄目ですし、学校だけでもダメだということだと思う。あと、子ども会がどんなものかということなのですが、まだ答えは出ておりません。関わり始めて一年半、これから子ども会への関わりを続けていって、「同和」問題とはどういうものか、自分にとって子ども会とはどういうものかというのは、自分にとってもこれからの課題だと思っている。

**徳島** 解放子ども会の入会の条件などを詳しく教えてほしい。

**報告者** 行政でははっきりこの人が会員であるというふうには確認できない状況である。あくまでも解放同盟で会員であることを確認して、保護者の同意が得られて本人の同意が得られて入会するという形をとっている。

**滋賀** 熊本県のレポートについて、水曜日に人権学習を毎週やっているけどその中身を教えてほしい。また、長野県のレポートについて、かなり手厚くお金をかけて、支援員をつけてやっているのはすごいなあと思ったけど、まわりの妬み意識などがあったら教えてほしい。

**報告者** 人権学習の内容については、最初から同和問題というわけではなく、それにつながる人権

学習をつみあげている。例えば、出会いの学習でムラのことを聞いていく中で、このムラを大切にしていきたいという気持ちや誇りが生まれるのではないかと考えている。だからたくさんのお出合いの学習を仕組んでいる。石川さんの学習も行っている。

**報告者** 私自身は聞いたことはない。他の地域から、なんでそこだけ手厚くするんだというような声を聴いたことはない。啓発・理解が進んでいると考えている。

**熊本** 今日の2人の報告は、解放子ども会の子どもたちは、差別に出会った時にどう立ち向かう力をつけるのかなということ聞いていた。フィールドワークの中でおばあちゃんたちの話を聞いて、故郷を大切に思う心を子どもたちに身につける、そのことが親を大事にすることにつながり、心から学んでよかったなあと思うことにつながると思う。

**福岡** 地元の差別事件を紹介していく。今年の2月に隣保館に差別落書きがされました。近くの公園もふくめて3か所。内容は思い出したくもないし言いたくもない、すぐに支部集会が開かれ、地域の方々のかたりや悲しみ、くやしきというものが発表された。小学生もその落書きを見ており、中には家に帰って、涙ながらに訴えた子もいた。それが2月にあって、9月に毎年まつりを地域で行っておりますが、今年は、落書きのことを取り上げようということで、中学生2名が落書きについて発表し、なくしていくためにしっかり協力して頑張っていきたいと思いますということを発表した。その後、親たちがステージに立って涙ながらに地域に向かって発信する姿を見て、人々が予断と偏見で語り継いできた差別のために、何もしていない子どもたちが部落差別のためにたたかっていると感じ、部落差別の悔しさを感じた。

**長野** 私も小学1年生から中学校3年生まで解放子ども会に通い、高校・大学でも子ども会に通いそして教員に。私自身、小中学校とも出身宣言を行ってきた。中学生の時には、自分からやりたいというふうに言い続けてやったんですが実際に出身宣言をすると立ち上がった途端泣いてしまった。初めて参加した全同教で、「あなたにとって「部落」は何ですか？」という問いに出会った。そこから、私は父と母にたどり着き父と母の人生を考えた。結婚差別を受け、乗り越えてきた父と母。その二人のこれまでの人生、そして、私のかかわりをずっと見つめ直していく中で父と母の生活そのすべてが部落差別との闘いだったということにたどり着きました。それが私にとっての部落、父と母のすべてが私にとっての部落というふうに思った。

—報告3—⑩

いろいろ勉強しましたが、20数年、何も変わってないと思います。  
(愛媛県人教)

—主な質疑と意見—

**愛媛** 参加している観客の人数は？減少傾向と聞いたが。

**報告者** 1年目の劇の内容は、結婚差別をとりあげた。その時は500人近く。その後は、140人ぐらい。今年は、愛媛県人教の応援もあって180人ぐらいに増えた。本当にありがたい。今後できるだけ長く続けたい。

**香川** タイトルにもある「いろいろ勉強しましたが、20数年、何も変わってないと思います」これの原因は何と考えるとこの劇をつくってあるのか？それと、行政の関わりは？

**報告者** 結婚や就職の時に、なんで部落出身の人たちが、家族に出自を知らせるかどうかが悩まなければいけないのか、差別はだんだん減っているけど、その世の中あまり変わっていないやないかということ。そして、この方は、地区外から地区へ嫁いだ方だったんですけど、自分は部落のこともしっかり伝えたいと思っていたが、連れ合いはそうではなかった。今も変わっていないやないかと、差別はなくなったといいながらも、変わっていないんじゃないのという思いがあったと思う。行政の関わりについては、会場の借り上げや備品購入を市費からしていただいている。

**大分** この劇の内容を教えてください。また、学校とコロンの活動とのつながりは？

**報告者** 部落問題の解決をめざすというのが一番の願い。部落問題だけでなく、いじめ・LGBT・障害者・高齢者などの他の人権問題を取り扱うことも部落問題の解決につながると考え、あえてしぼらなかった。けど、必ず取材をして劇を仕上げていった。参加した中学生は、当事者もいますし、そうでない人もいましたが、それぞれ自分を見つめることにつながり、自分自身の思いや感じたことを知らせてくれた。私は、その子たちなりの成長があったのではと感じていた。学校教職員とのつながりは、14年～15年ずっとある。自分たちの活動をお知らせしている。人権の輪というのは、続けていくことが大事だと思っているので続けていきたい。

**熊本** 動画でメッセージを送るという場面で、若い参加者が、素直な疑問をぶつけたとあるんですけど、その内容をお聞きしたい。それと、部落問題の解決に向けてやっていこうというエネルギーはどこから来るのかを教えてください。

**報告者** 素直な疑問とは、「まだあるの？」です。ほんとにあるんですかという気持ちが心のそこにあるんだと思います。エネルギーですが、私には重度の障害を持った40歳の子供がいます。私にとっては、障害者問題が一番の課題です。でも、学校で教員生活を送ってきて、最後までやってきた以上は、この差別問題に退職してもずっとなんかせないかんという思いがあるのと、部落差別の解消に向けてやっていることは、障害者差別の解消にもつながることかなと思っています。

## —報告4—⑥

共に学び、そして変わる

(大阪市人教)

—主な質疑と意見—

**大阪** 学習サポーターの募集やよみかき交流会について、詳しく教えてください。

**和歌山** 学習サポーターについてお聞きしたい。具体的にどのような1対1のやりかたやサポートの方法は？

**報告者** サポーターのなり手は、識字ボランティア養成講座や、ロコミ、知り合いの方、教職員を退職された方などから。学習者が、読めるけど書けないとか、ひらがな書けるけど漢字は書けないとか、人によってさまざまで、何がいいかはその人によって違う。だから、それに合わせてサポーターの方でも。あれがいいかな、これがいいかなって探っている状態で、できあいのテキストをもって教えますということとはしてない。また、日本語がかなりできる方にはおしゃべりをしている。日本語をしゃべっていくことで、コミュニケーション能力が高まることで、やはり生活のしやすさにつながっていくと考えているから。

**香川** 今の行政との関わりは？大阪市内、行政とのつながり？

**報告者** まず、名称は学習パートナー、横にいる伴走者という意味。それぞれできることをそれぞれやるということ。「識字日本語教室」でも日本語を教えるだけの教室ではなく、自分の思いを書き続けることを続けているが、自分にとっても大事なことであり、それがまさしく識字のやっていること。現在は、大阪市教育委員会の生涯学習という部署の中の識字日本語教室になっている。年間の文房具として年間3万弱支給されている。その他にコピー機の使用ですね。

**福岡** 部落の高齢者の方々も含めて、識字に参加したいと思える体制づくりやつながりについて、詳しく教えてください。

**報告者** 福岡は識字発祥の地。具合が悪いなあという学習者のお家によく行っておられたり、学習者さんの引っ越しの手伝いをしたりしてかわりを深めている。次につながるということですが、なかなか部落の中でつながっていかないというもどかしさ、ジレンマもある。自分たちの識字を広めたいという反面、自分自身の活動がむやみに広がってしまうというきらいがあるわけでそれは大きなジレンマにもなる。識字をやっていることが広がっていかないわけですから。

**大阪** 大阪市内の識字教室に通っている。発言したいと思ったのは、教室のこともありますが、それにもまして、全同教大会の中に識字の分科会をぜひつくってほしいということをお願いしたから。なぜかといいますと、先ほどから発言が相次いでいますように、現在各地の識字教室は大きな曲がり角っていいですか、いろんな方向に動こうとしています。どうやって行政との関係をつくらばいいのかわからないのか、どんなふうになったら学習者が

来るのか、どんなふうにパートナーがでてきてもらえるのかがですね。様々な課題を抱えながら四苦八苦してやっているところですね。今は識字の分科会をつくるタイミングであると思うんですね。今の日本はそれよりですね、先ほどから発言があるように、各地で頑張っておられる方、困っておられる方がですね、どんなところで困っているか交流できるようにしていただければいいなと思っています。また、識字は運動の原点といえますけれども、識字は教育の原点でもあるとも思っています。教育の原点としての識字というのも、教育関係者がどう認識してるのか、というのは重要なことではないかと思えます。

**徳島** 6年生で学習する時、一番最後の学習会の前段に識字の学習をいれている。本校の子どもたちと識字学級生徒の交流をした。差別に対して立ち向かっていかれる方の生の声を聞かせていただくっていうのは、子どもたちにとっても、すごくいい出会いになったので、私たちまた今後とも交流を続けていこうと考えている。

#### —報告5—⑳

「勉強しても意味がない」Aさんにそう言わせたもの (滋賀県人教)

#### —主な質疑と意見—

**滋賀** 報告者を動かすエネルギーっていうのは？それと、報告者自身の経験の中で一番伝えたいことは何？

**滋賀** 訪宅（ほうたく）というのは、家庭訪問とは違って、とにかく行くこと、その中で、色んなこと教えてもらって背景を知りその子や家族と正面から付き合っていくことである。

**報告者** エネルギーは、10何年間の取組の中で少しずつ変わってきている。最初は支援加配になって何とかしようというのがものすごくあった。しかし、関わっていく中で、Aさんに押し付けたいかん。Aさんしんどい目にさせてんのはこの社会つくってきた俺よな。という気持ちになってきた。だから、逃げたらあかんよね。というのがすごく大きかった。もう一つは、自分の子ども。自分の子どもは、小学校から、スポ少やクラブチームに入り、家に帰って夕食あって心配することはない生活を送ってる。Aさんと一緒に遊んでみると、「こいつほんまに飯食うとんやろか」という気持ちになる。うーん、これでなんもせいへんかったらずるいな。みたいなものがあった。それと、そうやってAさんと遊んでいる自分の息子を見るのがすごいうれしかったです。「自分の子どもにいい経験をさしてもろてるなあ」と思った。

**香川** 「訪宅」と言われたんですが、これは家庭訪問の事とは違うんですか？もっと深い意味があれば教えていただきたい。

**鹿児島** Aさんの学力的な部分を教えてほしい。中学校内での先生たちの関わりや小学校とのかかわりは？

**報告者** 訪宅というのは、別に、教員が必要だと

とらえていく家庭訪問のこと。その中で、生活の背景も含めてみたり感じたりするという。また、学校に来てもらうだけで緊張してしまう保護者もいるので、こっちの土俵ではなくて向こうの土俵に行くことが大切。学力ですが、小学校まではまじめにやっていた。理解力もあるし、実力もかなりある。けど、生活の中で身につける力は、抜けているところがいっぱいある。小学校での他の先生との関わりについては、学校の先生は基本的にまじめ。担任持ったら一生懸命やる。ただ、後々必ずは続かないところが課題。

**滋賀** 中2、3年と担任をしていた。2年生で休みがち、3年生は一回も来ることもなく卒業となった。訪宅も10回行って1~2回あえるかどうか。市から通訳の方も来ていた。1年半、私もなかなか苦しい時期であったが、卒業式は報告者と一緒に参加してくれた。

**愛媛** 最近、差別は見えにくくなっている。先生にしても行政にしても、子どもの把握をしているのかしていないのか。20~30年前は、先生たちは教師集団で把握していた。今、何も考えずにやっとなるが、普通じゃないかと思うんですね。どこの学校にしても。そのへんを全国の皆さん集まっておる中で、先生にしる行政にしるどういう仕事をして責任を持っているのか。その辺をぜひ考えてほしい。

**大阪** 一番先生が伝えたいことは何ですか？

**報告者** 差別がなくなってきたりとか、長いことやってるからかえって劣化しているというのは、私自身も感じることもある。学校がやらないかんことは本当にたくさんある。学校の責任も重いと思う。社会の中の見えにくい差別というのは、実はものすごく大きいんちゃうかな。教育で言うたら、影響がものすごく大きいと思う。私自身が世の中をよくするために動いているんやという姿を見せることが応援することになると思う。社会を変えようとする姿を見せることが信用につながると思うしそれが差別をなくすことにつながっていくと思う。

#### Ⅲ 総括討論

**熊本** 支部の課題として運動を続けている人たちの年齢が高くなっている。解放劇という取り組みを通して、その中で高校生が立ち上がっていった。私自身、自分たちのまちをほこりにおもえる、そんなまちになってほしい。

**鹿児島** 今年初めて支援加配教員になって、近隣の中学校に外国籍の子が一人いる。今不登校。とにかくやっていくしかない。交流の場できついんだったら、私がつくから。学習の内容は8割識字である。現在は、日本語もだいたい話せるようになってきている。私もあと何年かで今の学校を去るという現実があるが、今後も続けていきたい。

**熊本** 私は20数年前にダウン症の子を担当するという出会いをする中で、「自分は何のため生きていくのか？」というのを深く考えてきた。部落

問題についても最初は分からなかったが、13年前にムラのある学校に赴任し今も関わりをもっている。今は児童生徒支援加配をしている。昨日の報告を聞いて、自分の学校でもぜひ参考にしたと思った。

**熊本** 将来出会うであろう部落差別に対して、故郷を誇れるような子どもたちに育てたい。自分がきついときに、きついことを語り合える仲間を育てたい。地域に、学校に仲間を育てたい。そういう活動をしていきたいと考えている。本当に小さな歩みですが、私たちが一番大切にしないといけないのは、学力をつけることではなくて、仲間とつながっていく授業づくり、地域とのつながりづくりではないかと思う。そういう意味で、熊本の取り組みは、私はとても大切なことだと思う。

**三重** 先生にかけられている期待はとっても高いんだろうな。どんなことが今起こっているかをきちっと分析をしてつかむというそれは実態調査をするんじゃないかって、みなさんが足を運んで学ぶことで集約をしてきちっと整理をすることが今必要かなと思う。

**大阪** 午前中ありましたように、大阪市は、ひどいことばかりしているんですけども、職員の中には心ある人もいるということ。それと、どうネットワークをつくるのかということのは大きいことだなということ強く感じることもある。日本で生まれて育った子どもや、外国籍の子どもたちにかかわる問題を考えようと思ったら、今の識字とかにかかわらない手はないと思う。また、子どもの権利保障をちゃんとしていく上で、今日の基調にもありますけれども、日本はOECDの中で一番教育予算の少ない国です。これはですね、先ほどからの発言にもありましたが、教員が一人で教室でできることは限られている。そうじゃなく、いろんな人とつながりながら、教室の外でやらなければならない。組織を組んで、政府に対して働きかけをしないと変わらないことがたくさんあると思う。部落の子どもたちの進路保障や、海外からの子どもたちの進路保障、あるいは学習権もそうだと思うし、識字なんか何よりそうだと思う。教育機会確保法という法律もできてますから、ぜひこれを活用しながら、組織として何をどうするのか、人権教育研究協議会とや教職員組合としてもそうだと思う。組織としてやれることっていうのを一方で議論しながら、教室の中での議論ができるといいなあと思いつつ伺っていた。

**愛媛** 母親が部落出身。祖母が母親に対して差別発言を繰り返す中で生まれ育ってきた。私の地区では、子ども会もないので、仲間が全くいない状態でずっと歩いてきた。結婚差別も、ものすごいものがあって、結婚はしたんですけど、自分の家と同じように差別の中に今も暮らしているというような感じである。で、部落差別の解消って、「①自分が部落って言わなくても、幸せな社会」「②言って幸せな社会」「③言うとか、言わない

とかじゃなくて、何も考えなくても、何も感じなくても大丈夫な社会」のどれかなって思った時、私は②だったので、自分には学びがいてと思って今ここに参加している。それは結局、自分が幸せになれるという感じなんですよね。あの場面にぶち当たったら、私は結構、自信満々で強い人間でも思っているんですけど、やっぱり、すごい劣等感となんていうかすごいガーンってくるんですけど、学んでから大丈夫って思えるようになってきているのかなって思う。

**滋賀** 実はAさんは小学校からずっと名前を聞けば明らかに日本国籍でないことがわかる名前を使っていた。中学校でもその名前で来ていた。私は、小学校の時の仲間がいて受け入れられ、そのまま中学校で楽しい中学校生活を過ごせるものだった。ですが、彼は、自分の弟には、小・中学校では、日本語の名前で過ごせと言うた。名前を名乗ることで、場が明らかになる。そういう状況で過ごしてきたお兄ちゃんが弟にそう言わざるをえない小・中学校生活があったのかと思うと、やっぱり名乗れない学校をつくってしまったんが自分らやかと反省している。

**滋賀** 自分の子どもが中学校に入った時に差別事件があった。中学校の体育祭の朝に、同級生の地区の子どもが、交通事故にあい、車に轢かれて亡くなった。で、うちの子がすごくショックで落ち込んでいるところに、すごく慰めてくれたのが、地区の仲間、それから、中学校の友だちで、力になってくれた。本当にその時には学習会やいろんな人権学習が、本当に役に立ったと思って今でも感謝している。で、その子が亡くなって3日もたたない内に、轢かれた子じゃなくて、轢いた人がかわいそうという噂がものすごく流れた。それは、轢かれた子の親がすごい賠償金を請求して、轢いた人がかわいそうという噂でした。それは根も葉もない噂。ひかれた子の親は、自分の子どもの命がなくなったというだけで泣きはらしているのに、なんで賠償金の話が出るんでしょう。誰が考えてもそんな話はありません。でも、それを地区外の方は、みんな平気で流していく。そのように言われるのを私はたまらない。「その、その思いがあるから。発言しました。私はマイナスイメージだけでそのことを語ってはいないんです。エネルギーにして、部落差別解消をしていきたいんです。」だから、部落差別の実態を語ることは、時代遅れだとは思わない！

#### IV まとめ

2日間、5つの報告があって、解放子ども会のこと、識字のこと、その他あって、何種類か中身がありますので、参加者の皆さんはいろんな分野の話も聞けて、研修になったと思う。

全同教は「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」というテーマで、1960年代から長い間このテーマを基本にやってこられた。やはり、進路を保障してい

く、その時、学校だけではなく、地域、行政などがどういう関わりができるのが大事だというふうに思う。

私自身が、同和地区の生まれで、この問題にかかわるきっかけというのは、村祭りからの疎外、そこから部落問題をして、自分が生きるために勉強してきた。

私も何十年も、仕事としても、同和問題にかかわってきた。勉強してきました。自信を持ちました。でもね、今でも、60を超えた私でも辛いですね。ほんとにつらいことがあります。自分の子どもに伝えていくことという事、それから、自分の孫に伝えていくということがどれほど辛いのか。で、愛媛の方は、①～③の中で、②番を選んだ。やっぱ言っていこう。そのために学んでいる。その通り。でそれをやったらすぐに今の悩みやら苦しみがなくなるわけではない。やっぱり闘っていかないといけない。答えにはなりません、頑張るしかない、頑張ってください。

それから、解放子ども会の話でキーワードの1つは、他の報告にも絡みますが、「立場宣言」これはいろんな方面からみなさんにぜひ考えていただきたい。

ちょっと個人的な感覚ですけれども、あの、いろんなケースがある。同和地区の子どもたちが、いつこのことを知っていくか。発達段階ということも踏まえ、どの時期にどういう指導をしていくのが、自らほんとに立ち上がる力になるのかということ、この間みんなで一括して指導者や学校の先生方が、差別と闘うために、どれだけ自分のことを、宣言できるようにせないかんのや。発表せないかんのやということをやってきた。しかし、先走りという感もあったように感じて。私は自分の子どもに伝えたというのは、結婚の時。これが自分の子どもになかなか伝えられない。悩みますよね。子どもは多分うすうす私がやってる仕事のことなんか知ってたと思いますが、結婚差別を受けてですね。相手の子と自分の子どもと妻と私と夜を徹して話しました。

そうしたことをふまえていただいて。具体的にどのように学校教育の中で展開していくか、子ども会にかかわるかっていうことをしていただきたい。

一方でね、私が部落差別を知った時に教師不振におちいったということも一つどっかにしまっておいて下さい。人権を語る教師が、我々の苦しみを知っていながら放置してきた。この反省の上にたっていたきたい。というのが私の気持ちである。

行政もしかりですね。部落解放運動のないところでは、何もしてこなかったという歴史も知っておいてください。その反省の上に立って今後も活動をしていただきたい。

繰り返しますが、いろいろな差別に置かれている子どもたちの現状を語ったり、自分のことを語

ったり、非常に暗かったりしんどかったりしますが、必ず、展望というものを見せないでだめだと考える。同和地区の子どもたちやいろいろな差別に置かれる子どもたちに、事実を教えるだけというのは非常にしんどい、将来どういう展望があるのか、今こういう事やったらどういう風につながっていくのか必ず示していただきたいと思う。どうもありがとうございました。頑張ってください。